

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町 1 丁目 3 0 番 2 9 号		
自己評価作成日	平成22年12月5日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800582&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西5丁目3番地北1条ビル 3 階
訪問調査日	平成23年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念に沿って、一人ひとりの入居者さんを大切に、家族のような思いやりで、それぞれの方の生活を支援しています。ご家族も気軽に訪ねてくれる環境を作り、ご家族とともに介護を行おうと努力しています。ご老人達の生活ですが、常に明るく張りのある生活が送れるように、それぞれの方を刺激しつつ、足りない部分を補って、その方の力が発揮できるよう気配りしています。掃除は皆で一緒に行き、それぞれが役割を持ち、生きがいを維持できるよう努めています。グループホーム単独の組織ですが、それがグループホームの本来の目的や意義を維持できているのではないかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山、二十間道路の桜並木と環境に恵まれた当ホームは、共用スペースは木のぬくもりが感じられ、利用者も居室ではなくリビング、サロンで過ごしています。法人の理念、介護の理念を管理者と職員は常に意識し、実践に向けた取り組みをしています。玄関は施錠せず、気軽に誰でも訪ねて来やすくなっています。かかりつけ医も近隣で、24時間対応しており、入院対応の医療関係も充実しています。ホームも看取りを行い、職員はその看取りについての思いを話し合い、さらに外部研修を受け、職員の勉強会で研修内容について報告し、質の向上を目指しています。又、利用者にはいつも明るく、利用者の思いに対しても笑顔で接しています。家族の方々に協力を得ながら、家族と利用者の絆を大切にする支援、地域の協力者の方々、ボランティアの方々との交流も深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げています。会議の勉強会で再認識する時間を設け、実践に努めています。	管理者と職員は、リビングに理念を掲げ、実践の確認に努めています。さらに勉強会などの時間を設け、理念に沿ったケアサービスを再認識しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員になり、自治会の敬老会や観楓会に参加させてもらっています。入所者さんの友人が尋ねてくることがあります。	自治会に加入し、敬老会、観楓会等の行事に参加し、又、新たに今年1月に老人会にも加入して、交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会のイベント参加時には、スタッフも必ず出席し、その場で日ごろの介護実践を見ていただく機会にしています。外出の機会も、地域の方に介護実践を見ていただく機会と思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに、住民代表・ご家族・行政担当者・スタッフで開催、それぞれの方から助言を頂いています。それをホームの向上につなげ、ご家族からの要望で入居者のリストを作りました。	会議の中で要望があった入居者リストを作り（災害時の連絡網）サービス向上に活かしています。参加出来なかった家族には、ひまわり便りを送る際、内容を提示しています。	運営推進会議の出席者名は、氏名のみとなっているので、行政担当者、住民代表、家族、職員など、分りやすく議事録に記載することを望みます。又、災害時の協力者の方々にも、会議の案内をすることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日高広域連合の会議に出席しています。また、介護保険関連で情報交換し、協力関係を築いています。	行政の担当者とは、日高広域連合の会議に出席して、情報交換を行い、ケアサービスに向けて取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加し、そのあと研修報告を兼ねた勉強会を行い取り組んでいます。特に転倒しやすい方、体を搔いて掻き傷のできる方がいて、その方々へのケアについて話し合いを持つことができました。	玄関の施錠は夜間のみで、昼間は自由に出入りができます。研修会にも参加し、研修報告を兼ねた勉強会を行い、拘束しないケアを理解し、実践に取り組んでいます。又、職員が利用者の細かな行動にも気づくケアをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会に参加したり、そのあと研修報告を兼ねた勉強会を行ったりして取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員の方が運営推進会議のメンバーで、その方から運営推進会議の折り学ぶ機会がありました。以前、遺言の作成に協力した（無料弁護士相談に連れていく）ことや、自宅の処分に協力したことがあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前から、施設の訪問・施設の説明など行い、ご家族と話し合いを重ね、理解・納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ホーム訪問時に気軽に何でも話せるような雰囲気作りをしています。また、日ごろから利用者さんの要望をくみ取れるよう気配りしています。	職員から利用者へいつも声かけをして、利用者の要望を汲み取る気配りをしています。会議で取り上げた食事の（外食）改善案は、家族のアンケートの結果です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見を出し合い、提案を活かすように努めています。	職員の意見、提案は行いやすく、会議でも提案した地域の老人会に加入し、積極的に行事に利用者と参加しています。職員の提案などは運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な休日の希望を出来るだけかなえてもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をつくり、それぞれ学習するようにしています。また、会議で報告会を行い、研修に参加できなかった人にも、情報を共有できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者と施設見学会に参加したり、ネットワークを作り質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族から、生い立ち・認知症発症経過・日常の生活状況などの情報をもらい、それらをもとにご本人とコミュニケーションを取りながら、安心してもらえるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の話し合いからご家族の希望を聞き、入所後の訪問時にも悩みや希望を聞く機会を持つようにしています。担当制をとって、担当者が家族の一員となるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経営者や管理者の判断により、入居が適切か判断し、他の事業所利用が必要な時は相談にのっています。満床で入居の希望に添えない時、他のグループホームを紹介することがありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物たたみなど入居者ができることはやっています。完全にご本人ができないことでも、スタッフが補って、ご本人が達成感を持ていただくようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事があるとご家族も一緒に参加していただいています。また問題が生じた時は、ご家族も含めて解決していくこともあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などが気軽に訪問しています。馴染みのお店で買い物ができるよう支援しています。行きつけの美容院に外出支援などもしました。	利用者の馴染みの美容室に外出したり、利用者の友人などが気軽に訪問出来る環境です。隣のホームとも廊下で行き来でき、お互いに訪問し合い、新たな友人関係の場作りを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルが無いよう、また大きくならないよう、スタッフが入居者の間に入り、良好な関係が出来るよう努めています。入居者同士の励まし合いなど、微笑ましい場面が見られます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は見舞い、洗濯物などの支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から希望など言えない人は、スタッフが理解するように努め、日常の会話やスタッフ間の気づきで把握しています。	利用者の半数くらいの方は、自分の意向、意見を表現しづらいので、職員が細やかに気遣い、希望、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経歴・病歴・嗜好・日常生活などの情報収集を行い、これまでの生活に近い状態が継続できるよう、その人らしい暮らしができるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状をとらえ、ケアプランを作成しています。できることを継続し、できないところを援助しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、会議で意見やアイデアを出し合い、それを取り入れてケアプランを作成しています。	利用者からも直接ケアプランの意見を取り入れています。会議でも意見を取り入れ、ケアプランの現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画と業務日誌とが、連動性を保てるよう、工夫、検討することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄状況、食事量、身体的状況など記録されている。連絡帳で職員間の情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物など入居者の希望に応じ支援しています。病院の外来受診が必要なときも支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事（長寿を祝う会、観楓会など）に参加、町民芸術祭見学、歌謡コンサートに招待を受けました。訪問利用サービスで散髪しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の診療所に月2回往診して頂き、24時間体制で対応してくれています。	かかりつけ医は近隣にあり、体調が変化した場合は、すぐに診てもらえる関係を築いています。受診するときも、利用者の意向を確認して、利用者本位の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の診療所の看護師が隔週訪問しています。訪問時入居者の特変や個々の身体状況等を報告しています。状態変化時は24時間体制で対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接の診療所が病院と連携しています。入居者の入院中も状況把握に努め、退院に向けリハビリ等で協力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態等の変化に伴い、ご家族・かかりつけ医・スタッフと話し合う機会を持っています。11月に看取りケアを行いました。	利用者の状態変化に伴い、家族、かかりつけ医、職員と話し合い、22年には3名の方の看取りをしています。職員には看取りの気持ちを書いてもらい、終末期に向けた支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命蘇生の訓練を行っています。新職員が入った時は、必ずするようにしたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ・ご家族・近隣の方の参加で避難訓練を行っています。夜間想定でも行っています。	夜間想定避難訓練を近隣の方々、家族、職員と行い、避難場所は近くにある会館と、利用者も真剣に取り組み、食料、ラジオなど備蓄して取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の年長者として、敬意を込めて接するようにし、子供にするような言葉使いはしないようにしています。	職員は利用者に接する際には、言葉かけなど、誇りを損なわない心遣いで接しています。個人情報なども適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけでご本人が自己決定できるように支援しています。普段から、家族のような気兼ねない関係作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、何を行い、何を行いたくないのかを確かめながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時などは、お化粧の支援をしています。散髪は定期的に行い、ご本人の希望の髪型にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく召し上がれるよう声かけを行っています。なるべく自分で食べられるよう、時間を十分にとっています。食後に食器拭きをしていただいています。	利用者の出来る範囲で、食後の片付けを職員と一緒にしています。食事の時間は十分に取、会話をしながら、食事を楽しむことができるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された量を確認し、日誌に記録しています。食事はほとんど残されることが無く、楽しまれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアを行うのが難しい方は、介助させていただいています。食後歯磨きをするよう声かけしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄チェック欄を設け、排尿パターンを把握し、誘導を行っています。失禁パンツ・ポータブルトイレなども、その方の状況で種類を選んだり、昼と夜を区別したりしています。	利用者一人ひとりに合った対処で、紙パンツ使用の利用者は1名で、ほとんどの利用者は布パンツ、パットを使用、排泄のタイミングを掴み、声掛けで自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態にあわせ下剤の使用量を調節したり、水分摂取を促したりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順番のお好みに配慮しています。拒否があった時は無理強いをしません。週2回は入浴しています。	入浴は利用者に合わせ、希望の時間に入浴できるようにしています。入浴を拒む利用者は、家族と一緒に入浴して頂いています。他に清拭、手足のみ洗う等の支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間を把握し、安定して眠れるよう支援しています。畳の部屋で、周りに人のいるのを感じつつ昼寝をして頂くこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の働きや注意について書かれた用紙を閲覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味の時間を尊重しています。掃除・茶碗拭き・洗濯物たたみなどできることをやって頂いています。感謝の言葉で自信を持ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の心身状態にあわせ、散歩や買い物を楽しんでいます。外出行事やドライブはリフレッシュになりますので、今後も外出の機会を増やしていきたいです。	職員は利用者の健康状態に合わせ、買い物、散歩、ドライブ、外食（お気に入り昭和30年代の食堂です）など、常に日常的に外出を楽しむ機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人にあわせ、小額を持っています。買い物など支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせ、電話をかけたり、手紙を出したり支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふだんに使用し、採光や換気には配慮しています。清潔感と開放感があり、季節の花や行事ごとの飾りを添えています。リビングは入居者の憩いの場となっています。	天井には大きな丸太の梁で出来ていて大きな窓、予備のサロンはゆったりしたイスが置かれ、花も飾られ、窓からは通りの風景を眺めたりと、寛げる空間になっています。玄関も桜の街のイメージ通り、桜並木の絵画が飾られたり、居心地良い共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルで本を読まれたり、会話をされたり、ソファに座ってテレビを見たり、居眠りされたり、自由に過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族が用意された家具が置いています。なじみのものを置いている方もいます。日用品はクローゼットに収納され、自分の部屋で思い思いに過ごされています。	居室もゆったりとしたスペースで、家族、利用者の馴染みの家具が置かれています。家族が泊まる部屋は、小上がりで利用者の部屋と、どちらも可能な配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、ベッド・椅子などは身体機能に合わせています。手すりも必要に応じ設置し、必要時はポータブルトイレも使用しています。		